

日本語を母語としない子どもとともに

JSL 日本語指導教育研究会通信

(JSL= Japanese as a second language)

令和3年 第2号

発行者 会長 瀬村 進

日本語指導教育研究会 事務局

○よかトピア国際交流財団 言葉のサポート「チュータープログラム」について

はじめに、福岡よかトピア国際交流財団の村上千珠子様からチュータープログラムの案内がありました。

「チューター」とは、日常生活の支援をしてくれるボランティアの方々です。メールや SNS 等で学校からのお便りや郵便物の簡単な翻訳や要約を送ってもらうことができます。2021年の11月までは、それらのサポートが無料で受けられるという大変ありがたいサポートです。

私たち小学校・中学校も、これからますます多様化・複雑化していく外国と関わりのある児童生徒や保護者に対してのきめ細やかな配慮をしていく必要性を感じました。

○JSL 日本語指導教育研究会総会

毎年、JSL 日本語指導教育研究会では、5月に総会を開催していました。しかしながら、対面で行うことが難しい状況のため、今年度も書面開催となりました。また、総会の規約に基づき無事議決されることとなりました。

○第1回研修会 オンライン開催

研修1 オンライン授業づくり

外国との関わりがある生徒の学びを止めることがないよう、対面授業を受けることができない場合を想定し、指導内容が習得・定着できるオンライン授業をつくり、また、それらを全体で共有できるようにするため本年度の研修の一環としてオンライン授業づくりを積極的に進めていきます。それぞれ小学校5グループ、中学校3グループに分かれて指導案と教材を作成し発表する流れとなっています。内容は、「日本語の基礎指導」において優先順位の高いものや使用頻度が多いものを選びました。例えば、「普通形」「て形」「て形のつくりかた」「敬語」などの項目を取り上げます。研修の第1回目は、それぞれのグループに分かれて、授業づくりの方向性と担当する文型について話し合いを行いました。

- ・一つの学習項目をそれを基本にした文型で授業を行えるので勉強になる。
- ・どのような授業形態になるのかビデオを見ることができたのでとても参考になった。
- ・初めて知る内容もあり、自分でも一度試してみたいです。
- ・事前に話し合いのフォームを送ってもらっていたのでそれに沿って話し合いができた。

○小中部会

小学校・・・研修内容と進め方について

中学校・・・R3年度の役割分担と研修について

- ・係り決めとその係りの方針のようなものが決まってよかったです。
- ・小学校特有の悩みや課題について話ができる「場所」があるのはありがたいです。
- ・中学部の要点が明確になった。